



週刊さんいん学問

第475号

紙面ガイド

まなぶん2

- おうちで英語
- きらめく星
- ニュースまんが

まなぶん3

- 野菜ラボ
- ブックトーク
- ことばの宝物

まなぶん4

- まなぶんクロス
- 投稿ひろば
- 高校入試対策講座

まなぶん1

訪日客ふえるのはいいけれど… 困ります! 混雑、ポイ捨て オーバーツーリズム(観光公害)が問題に

日本を訪れる外国人観光客の数が、大変な勢いで新型コロナウイルスが広がる前のレベルにもどりつつあります。有名な観光地では、交通の混雑や騒ぎ声、ごみのポイ捨てといった問題が起きています。「オーバーツーリズム(観光公害)」と呼ばれ、放っておくと地元の人にめいわくなだけでなく、観光に来た人も楽しめなくなってしまうのです。

なぜなに?



バスに乗るため、長い列をつくる観光客ら＝10月、JR京都駅前

ごみを捨てる人もいて、近所の人には困っています。安全な暮らしを守るため、市や鉄道会社は交通誘導の人を毎日出しています。

鎌倉市には広くない地域に多くの古いお寺やおみやげ屋が並び通りがあり、どこも大にぎわいです。市はインターネットで観光名所の混雑状況を伝えています。混雑時に市民が優先して電車のホームに入れる試みに取り組みました。

全国の観光地もなやみは同じです。京都では市民のくらしの足で

あるバスの乗り場が外国人でごった返しています。世界遺産の厳島神社がある広島県の宮島では、オーバーツーリズムに対応するため、観光客に100円をはらってもらうしくみが始まりました。トイ

観光客数コロナ前こえる 政府のさらなる対策必要

政府観光局によると、海外から日本に来る訪日客の数は10月に251万6500人となり、新型コロナウイルスが広がる前の2019年の同じ月をこえました。1年間で見ると、23年は2500万人程度となることが期待されています。これまでで最も多かったのは19年の3188万人です。

他の国の通貨に比べて円の値打ち

レを用意したり、ごみを処分したりするために使う予定です。

政府は対策をまとめました。混雑時期に鉄道運賃を引き上げたり、駅から観光スポットに急行バスを走らせたりすることを挙げました。都市部に観光客が集中しないよう、地方の良さも発信します。

が下がっていて、外国人にとって日本での買い物が割安なことも追い風です。7月から9月に訪日客が使ったお金は19年の同じ時期を上回りました。

政府は多くの観光客を受け入れ、国内の経済を元気にすることに力を入れてきました。ただ訪日客がふえればオーバーツーリズムは大きな課題となります。自治体や鉄道、バス会社だけでは対策に限度があり、政府の努力が求められます。

まなぶんクイズ

(12月6日付紙面から出題)
経済協力開発機構(OECD)は5日、81カ国・地域の15歳対象で2022年に実施した学習到達度調査の結果を公表。日本は高校1年が参加して読解力が過去最高の〇位となり、前回18年調査の15位から大幅に上昇しました。〇に入る数字は?
①1 ②3 ③5

空からみたニッポン



イラスト 黒澤達矢

<ヒント>オランダの町並みを再現したテーマパーク

(クイズとイラストの答えはまなぶん4面)

スポーツ

師走の松江を舞台にした「国宝松江城マラソン2023」(松江市、島根陸上競技協会、山陰中央新報社、国宝松江城マラソン実行委員会主催)が3日、開かれました。日本陸連公認のコース(42.195キロ)で行われたフルマラソン、新しくできたファンラン(4.5キロ)に出場した計3344人が時折、小雨が降る中、城下町や宍道湖、中海の風景を楽しみながら走りました。

国宝松江城マラソンに3344人



フルマラソンの選手たちは、午前8時半の号砲と同時に松江市総合体育館前(松江市学園南1丁目)を出発。松江城や宍道湖沿いの市街地を走り抜けた後、中海沿岸のコースを時計とは反対回りに進みました。沿道に詰めかけた観衆は「ナイスラン」「あと少し」と声をかけて応援。エイドステーションでは、しみじみ汁やあご野焼きなどが振る舞われ、島根の名物でエネルギー補給をしたランナーが勢よく飛び出していました。

くらし

出雲大社(出雲市大社町杵築東)で3日、破魔矢など縁起物作りが始まりました。新型コロナウイルスの「5類」移行後、初めて迎える正月で、三が日はコロナ禍前と同じく約75万人の初詣客を見込んでいます。

この日は社務所で巫女と神職の計6人が、来年の干支「辰」が描かれた絵馬を破魔矢に付ける作業に励みました。辰の絵は日本画家の藤原正人さんが手

出雲大社で迎春準備始まる



縁起物の準備作業をする巫女。3日、出雲市大社町杵築東の出雲大社

がけました。巫女の神田琴音さん(22)は「皆さんが1年間健康であるようにと願いながら作業している」と話しました。

迎春準備は17日ごろまで取り組み、厄払いの大小の破魔矢や笹獅子頭など、例年とほぼ同じ数の計3万5千本を用意します。出雲大社では、27日に新年の若水をくむ井戸を清める御饗井祭、31日に大祓と除夜祭を執り行なって新年を迎えます。

社会

今年話題になった言葉に贈られる「現代用語の基礎知識選 2023ユークキャン新語・流行語大賞」の年間大賞に、プロ野球阪神による38年ぶりの日本シリーズ制覇で話題となった「アレ(A.R.E.)」が選ばれました。優勝を意味しますが、選手が意識しないよう岡田彰布監督(66)がアレと表現していました。

トップテンには野球から「ベッパミル・パフ

今年の流行語大賞に「アレ」



オーマンス」も入りました。ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で優勝した日本代表のアメリカ大リーグ、カージナルスのラース・ヌートバー外野手(26)が、こしょうをひくしぐさでチームを盛り上げました。

将棋の観戦をインターネット配信などで楽しむファン「観る将」も選ばれました。八大タイトルを史上初めて独占した藤井聡太八冠(21)の活躍はファン層を広げ、社会現象となりました。

タイニャギ



より安い方法で

日本人になじみの深いウナギ。国内で売られている99%は養殖ものだよ。海でとった赤ちゃんウナギ「シラスウナギ」を水そうで育てたんだ。

そのシラスウナギの取れる量が近年減っていることを受けて、近畿大学はウナギを卵から人工的に育てる完全養殖に取り組んでいた。いまはともにお金がかかるけど、より安くできる方法を研究していくんだって。

山陰中央新報製作センター見学施設 しんぶん学問館

山陰中央新報社の見学施設「しんぶん学問館」(出雲市斐川町上庄原)は、展示コーナーや設備の見学を通して、紙面作りや印刷の仕組みを学ぶことができます。

山陰中央新報を印刷している「山陰中央新報製作センター」に併設され、大型ディスプレイで映像を見られる視聴覚ホール、過去の大きなニュースを伝えた紙面をはじめとした各種展示コーナーなどがあります。月曜日から金曜日まで(祝日を除く)見学を受け付けています。



重要ニュース紙面展示コーナー

山陰中央新報や前身の新聞は、140年以上にわたって国内外のさまざまな出来事を報じてきました。竹下登首相の誕生、くにびき国体、山陰地方を襲った災害などを伝えた紙面を展示しています。



カラー印刷の輪転機模型

カラー印刷の仕組みを輪転機の模型で解説します。模型は高さ1.8メートル、4色を印刷するローラーが上下に並んで、紙が動き、4色を重ねて印刷する仕組みを理解してもらいます。

主な展示・設備

- 1階**
- 創刊号パネル
 - 記念日新聞コーナー
 - 重要ニュース紙面
 - 活字など印刷資料
 - 巻き取り紙
 - 多目的ホール
 - 活版印刷機
- 2階**
- さんさんホール(188台ディスプレイ設置)
 - 組版体験コーナー
 - 輪転機模型
 - インキ

見学について

時間 月一金曜日(祝日除く) 午前10時～午後2時半
人数 1日2団体まで 1回の来館者は40人まで
内容 館内見学、新聞教室
予約 電話で受け付け(平日午前9時～午後5時)

予約・問い合わせ先
山陰中央新報
製作センター
(出雲市斐川町上庄原1318)
電話 0853(73)9331